

障害者文化芸術の振興に 関するアンケート調査 取りまとめ結果

(令和5年12月 千葉県文化振興課)

目次

項目名	頁数
調査概要	2
1.事業所等の施設の種類	5
2.利用者の実人数及び平均年齢	6
3.利用者の障害の種類（複数回答）	7
4.文化芸術活動の経験を有する人材の有無	8
5.文化芸術活動に参加している人の割合	9
6-1.事業所が実施している文化芸術活動の分野（複数回答）	10
6-2.事業所が実施している文化芸術活動の方向性（複数回答）	11
7.文化芸術活動を通じて実感している成果（複数回答）	13
8.文化芸術活動を実施する際に協力してもらう機関（複数回答）	14
9.障害者による文化芸術活動を推進していくための課題（複数回答）	15
10. 障害者文化芸術振興のため県にどのような支援を求めるか。 （複数回答）	16
11.その他、県が取り組む文化施策等への意見（自由回答）	17

調査概要

◆調査の目的

次期「千葉県文化芸術推進基本計画」の基礎資料とするとともに、今後の文化振興施策や事業展開の参考資料とするため

◆依頼先

千葉県文化振興財団及び株式会社いろだま（令和5年度千葉県障害者芸術文化活動支援事業 受託者）を通じ、県内に所在する障害者福祉事業所等60団体に対し調査を依頼

◆回答数 39団体

◆回収率 65%

◆調査時期 令和5年10月27日～令和5年11月30日

調査概要

◆調査項目

- 問1 事業所の施設の種類の種類
- 問2 事業所の2023年10月1日現在の利用者（サービス提供実績記録票のある障害者）の実人数及び平均年齢
- 問3 事業所の利用者の障害の種類
- 問4 事業所の従事者（常勤専従・常勤兼務・非常勤）の中に、文化芸術活動の経験を有する人材の有無
- 問5 事業所の利用者のうち、文化芸術活動に参加している人の割合
- 問6 事業所が実施している文化芸術活動の分野と方向性（複数回答）
- 問7 障害者による文化芸術活動を通じて実感している成果（複数回答）
- 問8 文化芸術活動を実施する際に協力してもらう機関
- 問9 社会全体で障害者による文化芸術活動を推進していくための課題
(複数回答)
- 問10 千葉県で障害者文化芸術を振興するために、県にどのような支援を求めるか
(複数回答)
- 問11 その他、県が取り組む文化施策等に対して意見等（自由回答）

調査概要

◆調査結果の見方

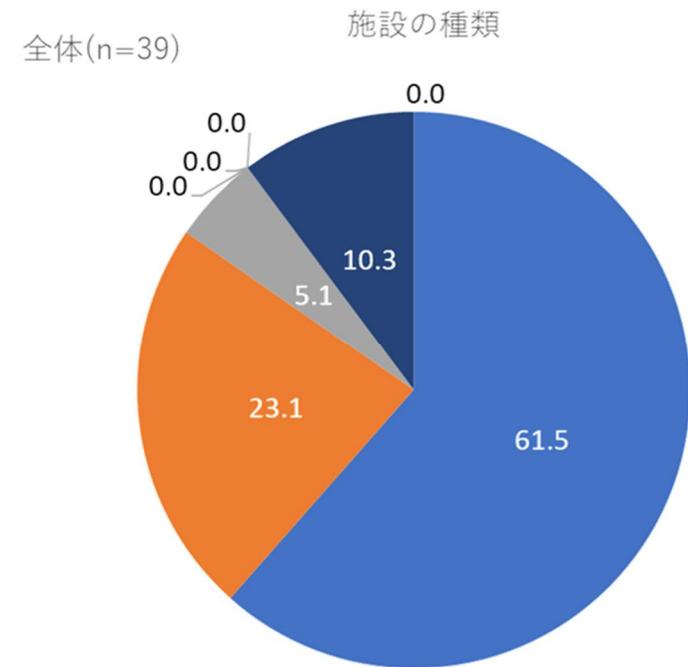
調査結果を読む際に、次の点に留意すること。

1. 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が**100%**にならないことがある。
2. 基数となるべき実数は n として掲載した。その比率は n の件数を**100%**として算出した。
3. 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が**100%**を上回ることがある。
4. 複数の選択肢を合わせた表記の回答割合は、選択肢の回答者人数を合わせた値を、全回答者で割った値を採用しているため、選択肢の回答割合を単純に足した値と異なることがある。

1.事業所等の施設の種類の種類

施設の種類の種類は、「障害福祉サービス事業所」の回答が**61.5%**で最も高く、次いで「障害者支援施設」**23.1%**、「その他」**10.3%**、「地域活動支援センター」が**5.1%**と続き、「身体障害者福祉センター」、「視覚障害者情報提供施設（点字図書館）」、「聴覚障害者情報提供施設」、「施設を運営せずに障害福祉サービスを提供している」は**0%**でした。

「その他」の自由記述を見ると、「特別支援学校」、「福祉型障害児入所施設」、「市の心身障害ワークホーム」、「デザイン会社」がありました。



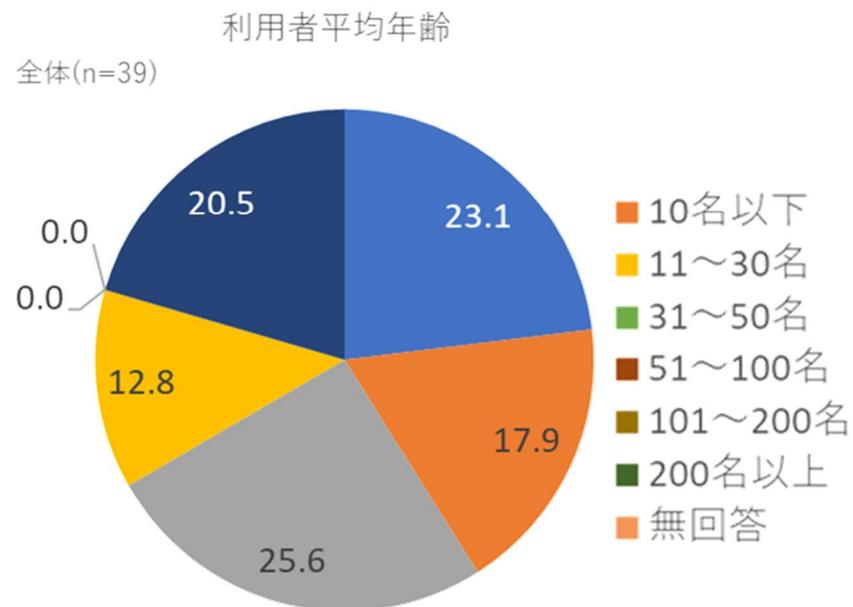
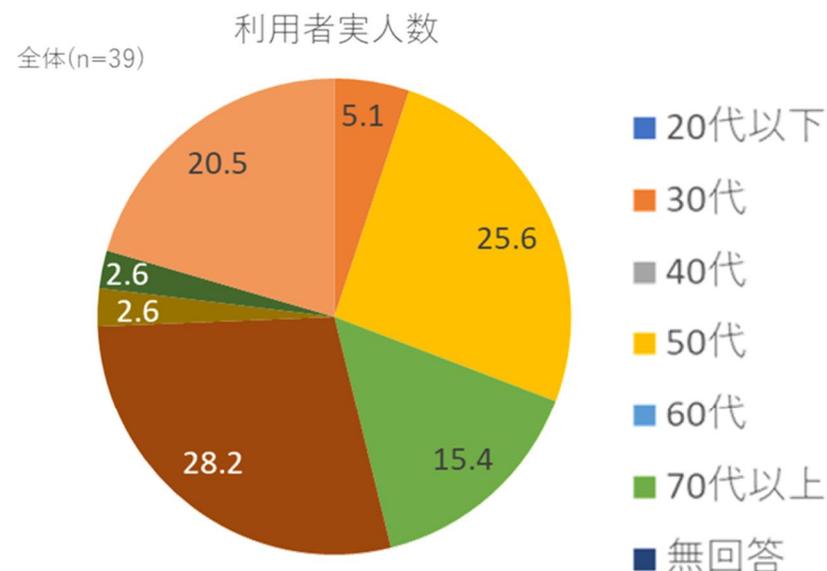
- 障害福祉サービス事業所
- 障害者支援施設
- 地域活動支援センター
- 身体障害者福祉センター
- 視覚障害者情報提供施設（点字図書館）
- 聴覚障害者情報提供施設
- その他（具体的に）
- 施設を運営せずに障害福祉サービスを提供している

2.利用者の実人数及び平均年齢

事業所の2023年10月1日現在の利用者（サービス提供実績記録票のある障害者）の実人数は、最小が6名で、最大が268名となり、各事業所によってばらつきがみられます。割合としては「51～100名」が28.2%と最も高く、次いで「11～30名」25.6%、「31～50名」15.4%、「10名以下」5.1%、「101～200名」「200名以上」が2.6%でした。なお、「無回答」は20.5%でした。

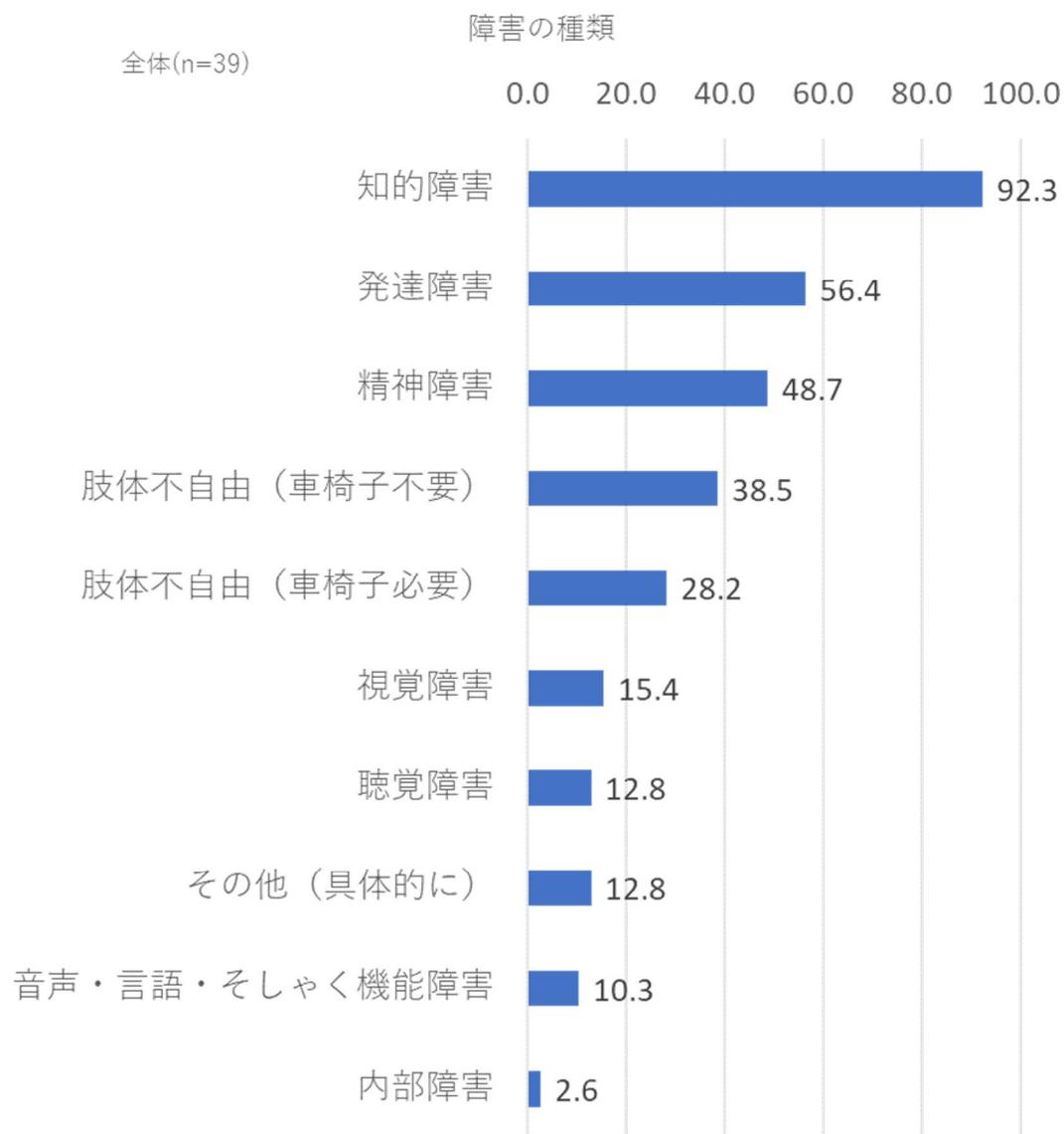
また、平均年齢は「40代」が25.6%で最も高く、次いで「20代以下」23.1%、「30代」17.9%、「50代」12.8%、「60代」、「70代以上」は0%でした。

「無回答」は20.5%でした。



3.利用者の障害の種類（複数回答）

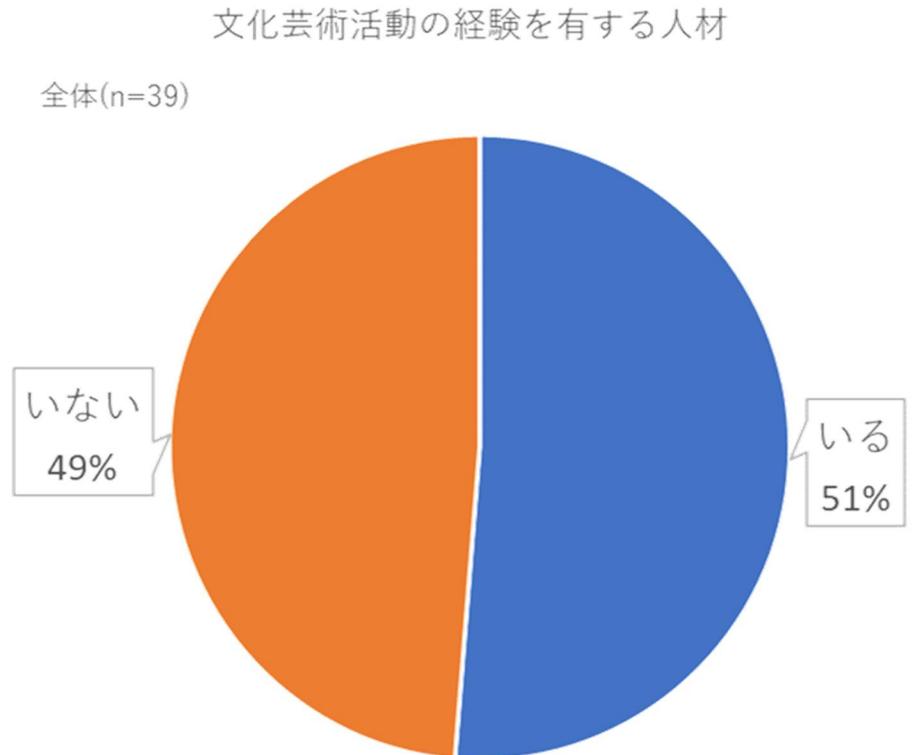
障害の種類については、「知的障害」が**92.3%**と一番高く、次いで「発達障害」**56.4%**、「精神障害」**48.7%**、「肢体不自由（車椅子不要）」**38.5%**、「肢体不自由（車椅子必要）」**28.2%**、「視覚障害」**15.4%**と続き、「聴覚障害」「その他（具体的に）」が**12.8%**、「内部障害」が**2.6%**でした。



4.文化芸術活動の経験を有する人材の有無

事業所の従事者（常勤専従・常勤兼務・非常勤）の中に文化芸術活動の経験を有する人材※がいるかどうかについては、「いる」が51.3%、「いない」が48.7%でした。

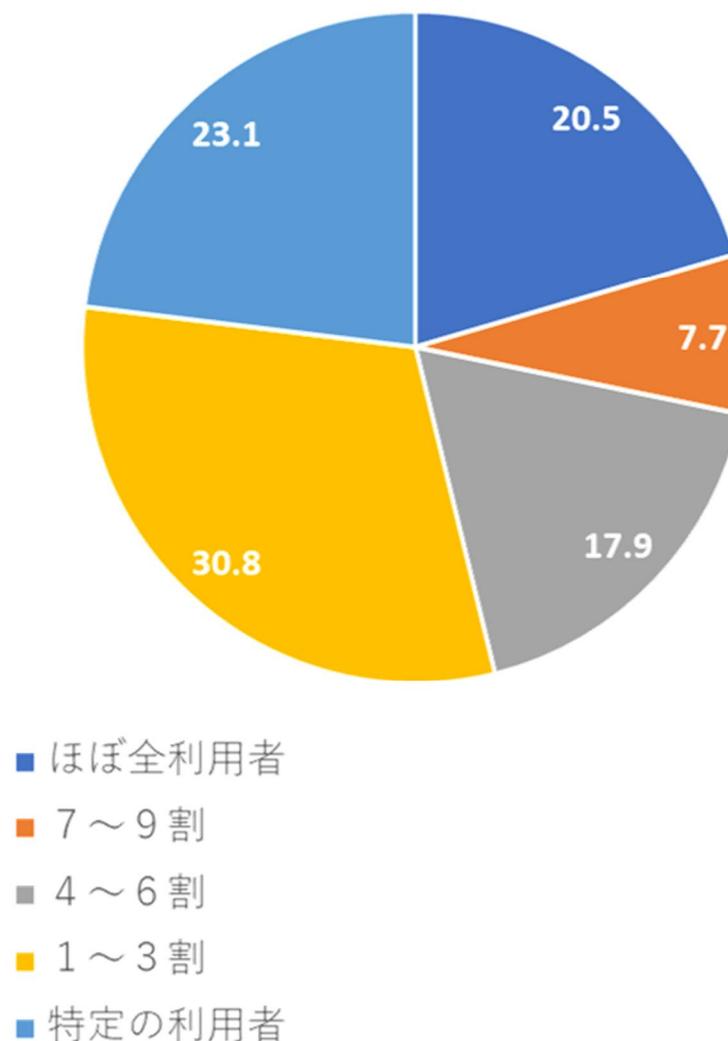
※例：大学等の高等教育機関で 芸術系の学部や専攻で学んだことがある方、趣味や余暇で日頃から文化芸術活動に取り組んでいる方など



5.文化芸術活動に参加している人の割合

事業所の利用者のうち、文化芸術活動に参加している人の割合は、「1～3割」が**30.8%**と一番高く、次いで「特定の利用者」**23.1%**、「ほぼ全利用者」**20.5%**、「4～6割」**17.9%**、「7～9割」**7.7%**でした。

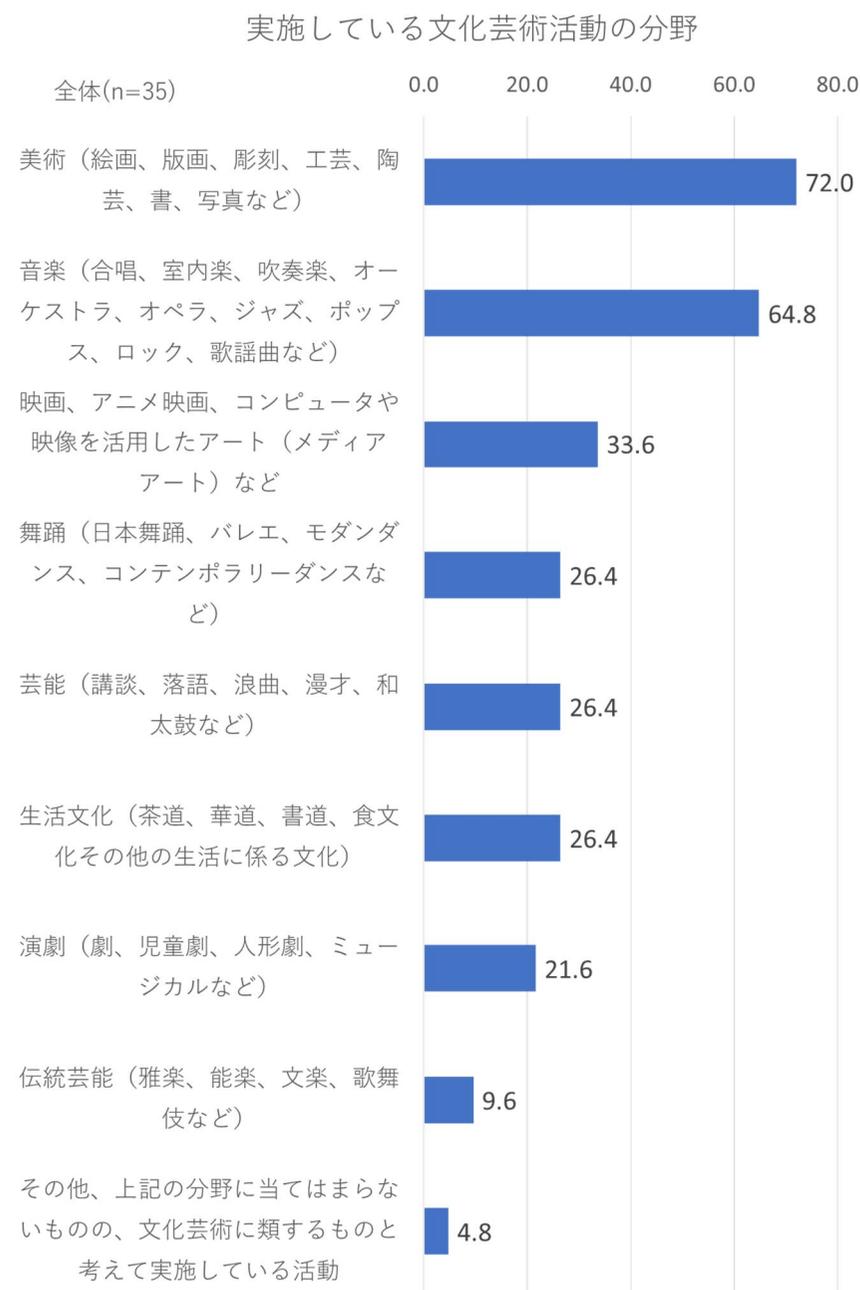
文化芸術活動に参加している人の割合
全体(n=39)



6-1. 事業所が実施している文化芸術活動の分野（複数回答）

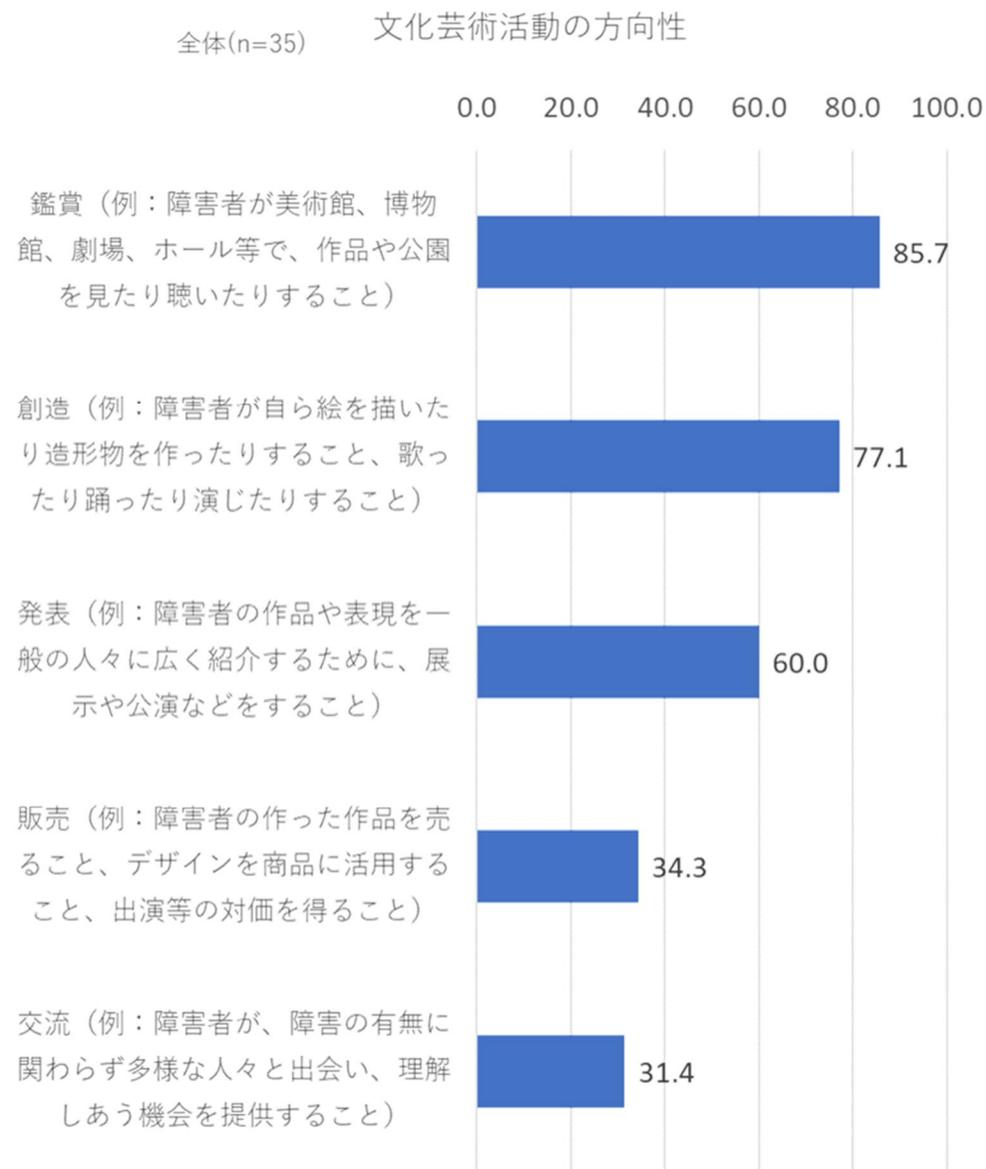
事業所が実施している文化芸術活動の分野は、「美術」が72.0%と最も高く、次いで「音楽」64.8%、「映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など」33.6%が続き、「芸能」「生活文化」が26.4%、「伝統芸能」9.6%、「その他」が4.8%でした。

「その他」については、「利用者が普段から自宅や施設で日常的にしている表現(手紙、本への書き込み、ノート等)」や、具体的な発表会の名称等の記載がありました。



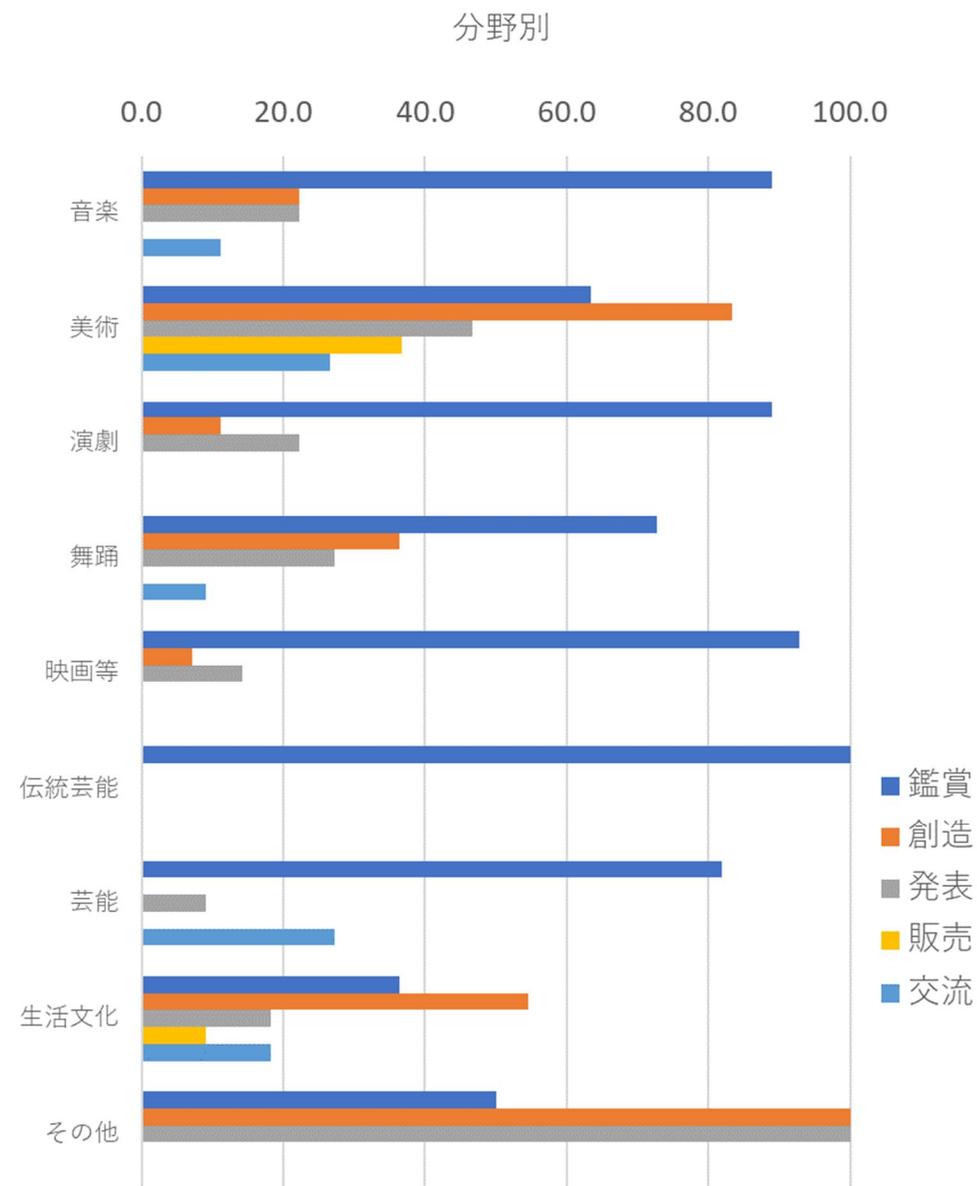
6-2. 事業所が実施している文化芸術活動の方向性（複数回答）

事業所が実施している文化芸術活動の方向性は、「鑑賞」が85.7%と最も高く、次いで「創造」77.1%、「発表」60.0%、「販売」34.3%、「交流」31.4%でした。



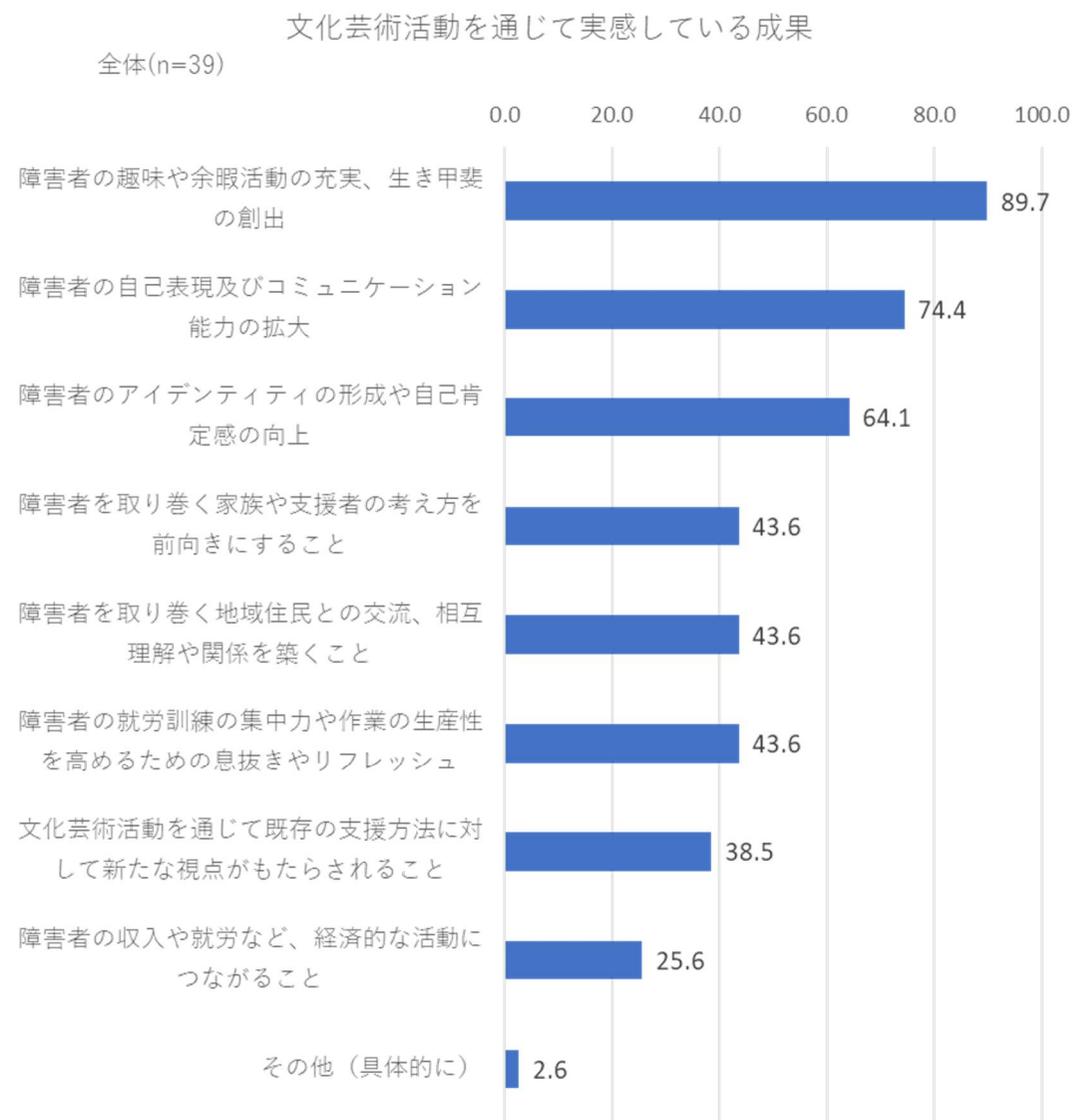
6-2. 事業所が実施している文化芸術活動の方向性（複数回答）

分野別に見ると、ほとんどの分野で「鑑賞」が最も高い割合となっていました。また、「美術」「生活文化」では「創造」が最も高い割合で、「販売」「交流」も他の分野に比べて高い割合となっていました。



7.文化芸術活動を通じて実感している成果（複数回答）

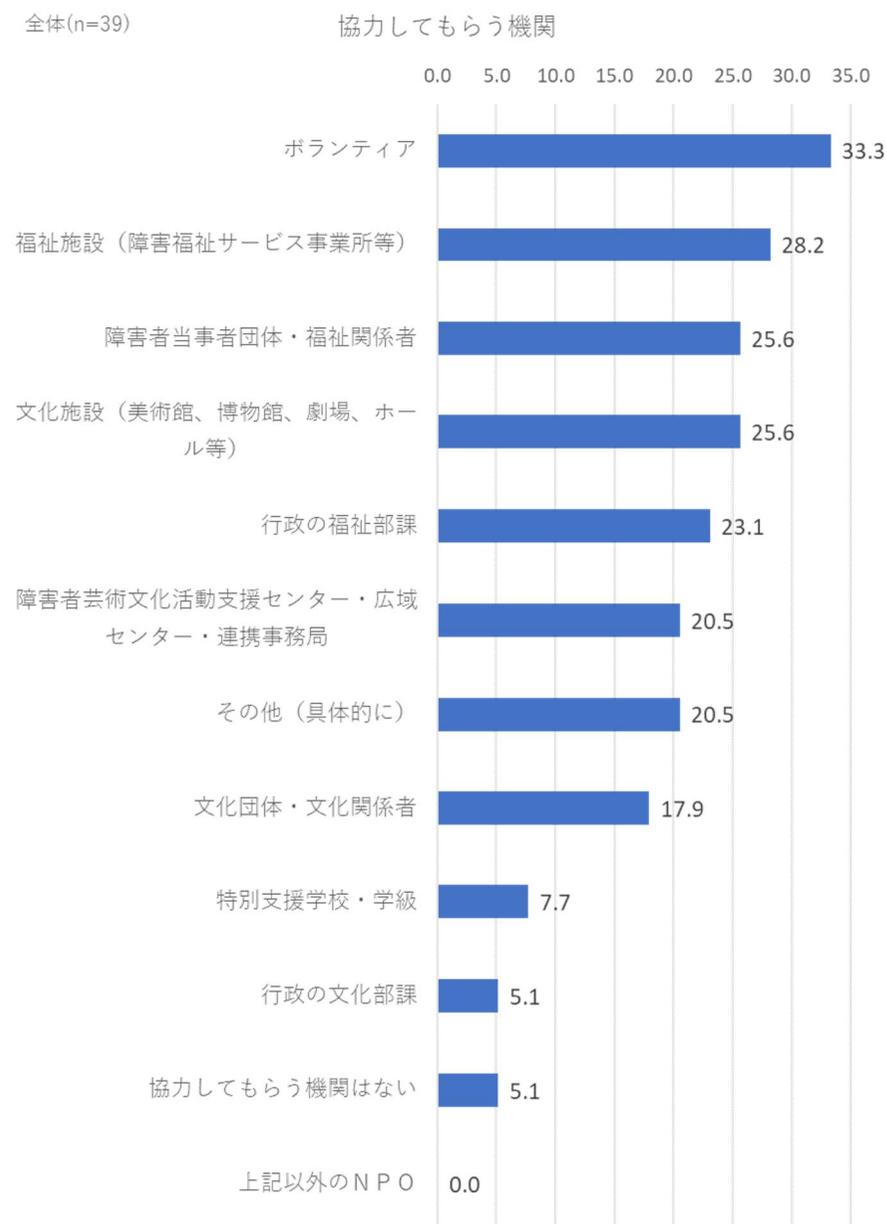
障害者による文化芸術活動を通じて実感している成果を聞いたところ、「障害者の趣味や余暇活動の充実、生き甲斐の創出」が**89.7%**と最も高く、次いで「障害者の自己表現及びコミュニケーション能力の拡大」**74.4%**、「障害者のアイデンティティの形成や自己肯定感の向上」**64.1%**と続き、「障害者を取り巻く家族や支援者の考え方を前向きにすること」、「障害者を取り巻く地域住民との交流、相互理解や関係を築くこと」、「障害者の就労訓練の集中力や作業の生産性を高めるための息抜きやリフレッシュ」が**43.6%**、「文化芸術活動を通じて既存の支援方法に対して新たな視点がもたらされること」**38.5%**、「障害者の収入や就労など、経済的な活動につながること」が**25.6%**でした。



8.文化芸術活動を実施する際に協力してもらう機関（複数回答）

文化芸術活動を実施する際に協力してもらう機関を聞いたところ、「ボランティア」が**33.3%**と最も高く、次いで「福祉施設（障害福祉サービス事業所等）」**28.2%**、「障害者当事者団体・福祉関係者」「文化施設（美術館、博物館、劇場、ホール等）」が**25.6%**と続き、「行政の福祉部課」**23.1%**、「障害者芸術文化活動支援センター・広域センター・連携事務局」、「その他」が**20.5%**、「文化団体・文化関係者」**17.9%**、「特別支援学校・学級」**7.7%**、「行政の文化部課」、「協力してもらう機関はない」が**5.1%**でした。

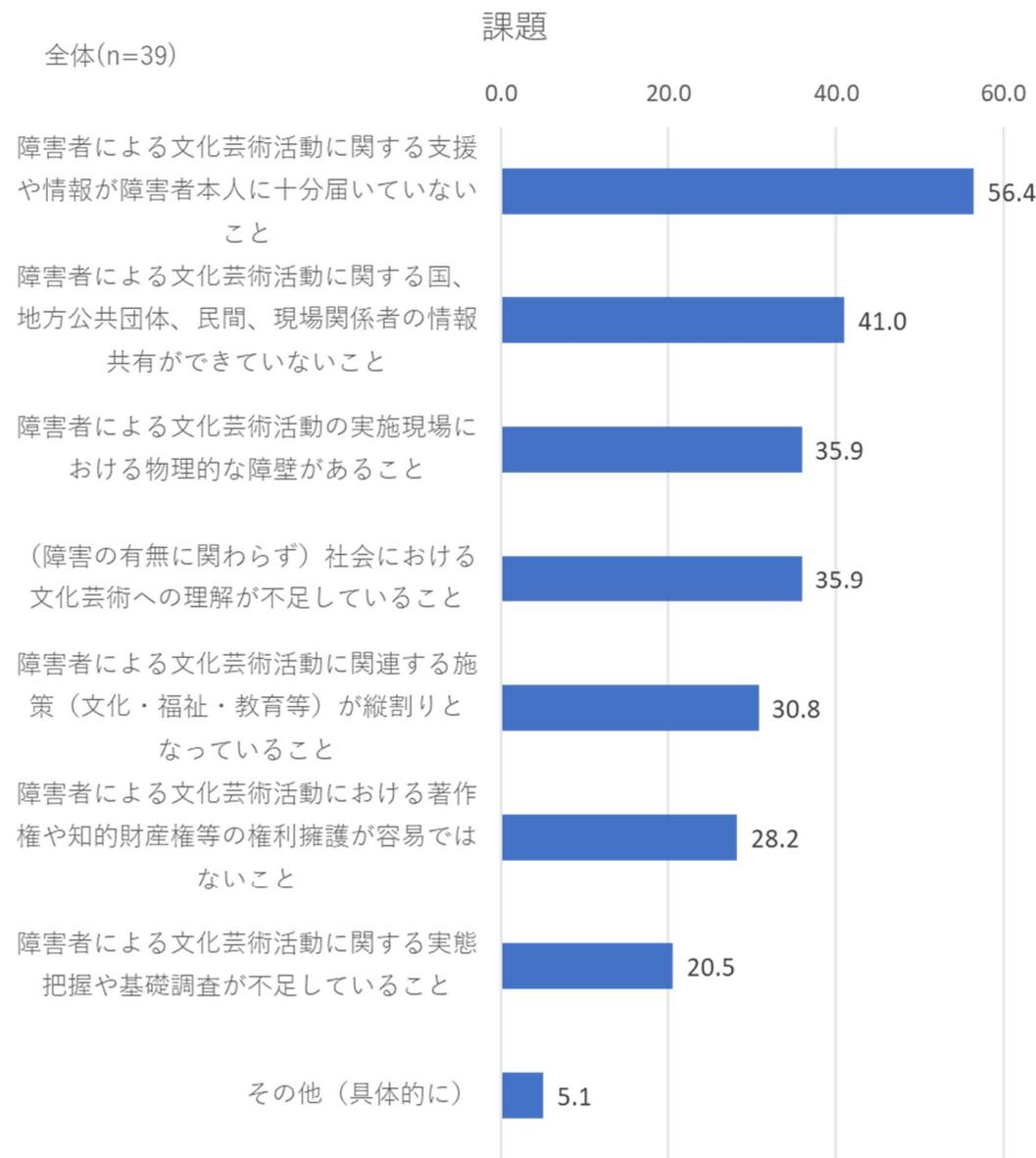
「その他」については、「地域・近隣の学校」「企業やギャラリーのオーナー等」「知人」等がありました。



9. 障害者による文化芸術活動を推進していくための課題（複数回答）

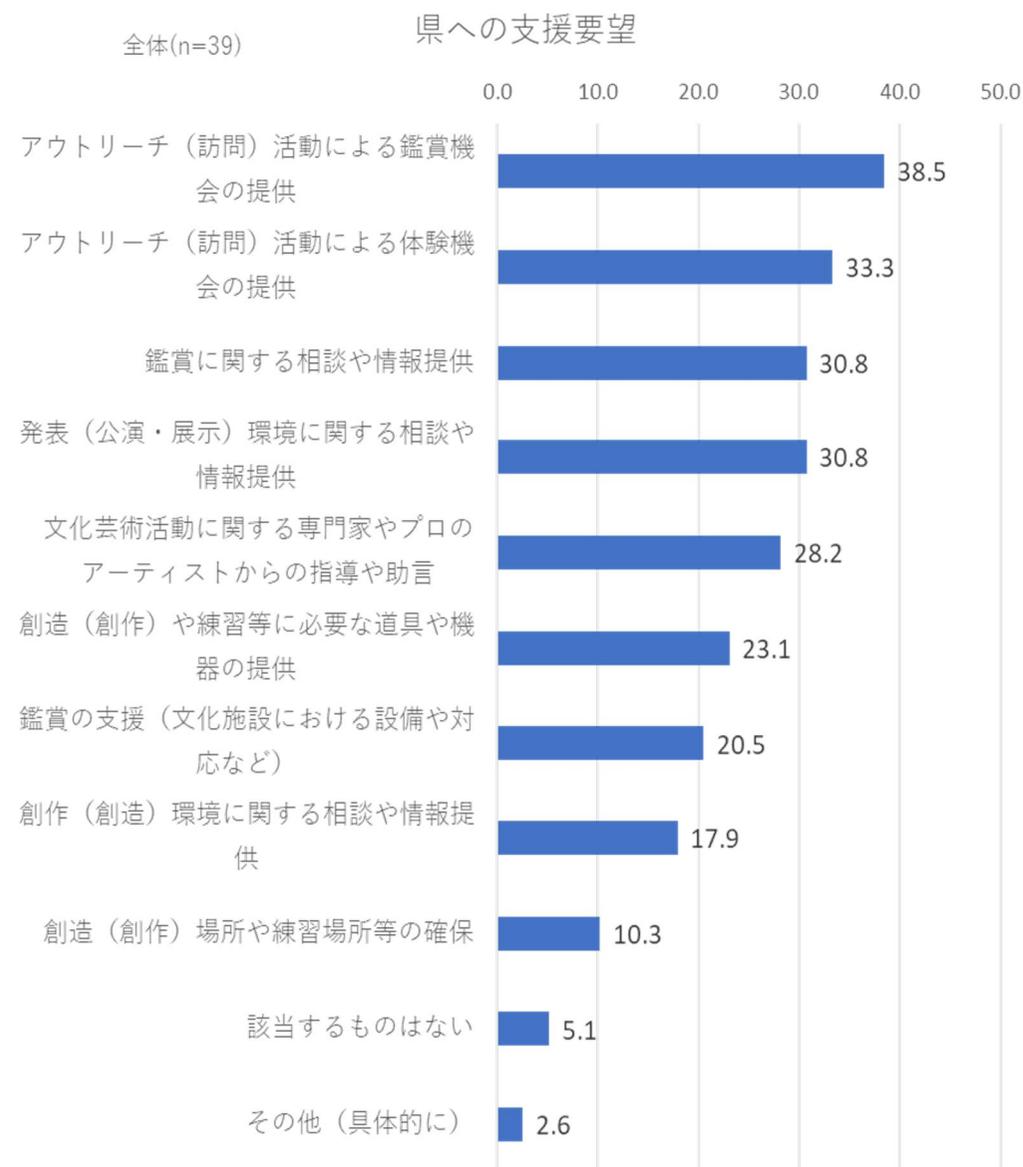
社会全体で障害者による文化芸術活動を推進していくための課題を聞いたところ、「障害者による文化芸術活動に関する支援や情報が障害者本人に十分届いていないこと」が**56.4%**と最も高く、次いで「障害者による文化芸術活動に関する国、地方公共団体、民間、現場関係者の情報共有ができていないこと」**41.0%**が続き、「障害者による文化芸術活動の実施現場における物理的な障壁があること」、「（障害の有無に関わらず）社会における文化芸術への理解が不足していること」が**35.9%**、「障害者による文化芸術活動に関連する施策（文化・福祉・教育等）が縦割りとなっていること」**30.8%**、「障害者による文化芸術活動における著作権や知的財産権等の権利擁護が容易ではないこと」**28.2%**、「障害者による文化芸術活動に関する実態把握や基礎調査が不足していること」**20.5%**、「その他」**5.1%**でした。

「その他」については、「家族も施設も日常的な支援・介護で手一杯、芸術活動参加への人手が足りない」「予算の不足」「民間企業等と連携したいが、繋いでくれる機関がない」等がありました。



10. 障害者文化芸術振興のため県にどのような支援を求めるか。 (複数回答)

千葉県で障害者文化芸術を振興するために県にどのような支援を求めるかを聞いたところ、「アウトリーチ（訪問）活動による鑑賞機会の提供」が**38.5%**と最も高くなっており、次いで「アウトリーチ（訪問）活動による体験機会の提供」**33.3%**、「鑑賞に関する相談や情報提供」**30.8%**、「発表（公演・展示）環境に関する相談や情報提供」**30.8%**、「文化芸術活動に関する専門家やプロのアーティストからの指導や助言」**28.2%**、「創造（創作）や練習等に必要な道具や機器の提供」**23.1%**、「鑑賞の支援（文化施設における設備や対応など）」**20.5%**、「創作（創造）環境に関する相談や情報提供」**17.9%**、「創造（創作）場所や練習場所等の確保」**10.3%**でした。



11.その他、県が取り組む文化施策等への意見（自由回答）

県が取り組む文化施策等に対しての意見等については、自由回答としており、以下のような御意見がありました。

（重複した内容や、個人を特定できる記載については省略しています）

- 文化芸術の活動は子どもたちの様々な能力を刺激するのにとても適した活動だと思う。作品の発表の場（コンテストなど）や評価の場があると目標が持て、取り組みやすいため、児童福祉施設も参加できる企画をお願いしたい。
- 精神障害で生活しづらい人たち（特に若者）が安心して過ごせるギャラリーの開設や、放課後デイサービスのように文化活動が行える行政サービス
- やる力はあるけど、スタッフのマンパワーが足りず、過去出来ていたが今現在は出来ていない。
- 県の障害者芸術文化支援センターでのアートに関する研修を増やして欲しい
- 千葉県の特設支援学校高等部で「美術」の授業を設けていただきたい。先生方の「美術」の知識不足は、日本の教育上の問題だと思う。専門の先生や、美大芸大卒の方が少しでも入るなどして、仲間たちの創作活動が充実できると良い。
- 創作活動に必要な道具の購入費用の補助